

環境中有害金属 長距離移動モデル検討 環境省



環境省は、環境中における有害金属の長距離移動モデルを検討します。環境中では、残留性を有する物質のうち、常温で一定の蒸気圧を持つ物質(中揮発性物質)は、長距離移動の可能性や生物への移行・濃縮の可能性が懸念されます。中揮発性物質の長距離移動は、環境汚染防止の国際的枠組みでも関心を集めており、まず水銀を対象に検討を始める考えです。

中揮発性物質に関しては、残留性有機汚染物質(POPs)に関するストックホルム条約などの枠組みで国際的な取り組みが始まっており、対象物質の長距離移動の特性も主要な関心事となっております。

水銀など一部有害金属は、POPs などと類似の長距離移動や生物濃縮特性を有することが考えられ、環境省の有害金属対策策定基礎調査専門検討会では、長距離移動モデルの検討計画が提示されました。

水銀の地球規模の移動経路は主に大気経由とされていますが、大気中の水銀が地表に沈着して遠隔地の人や生態系に影響を及ぼすことも考えられ、大気と水圏の間の動態把握が重要となってきます。水銀には元素状、イオン性、粒子状など多くの化学形態が存在し、形態変化が移動特性に影響を及ぼすことが予想されます。最終的に暴露にいたる経路は水環境経由などが想定され、発生源から遠隔地までの長距離移動と共に、大気や海水など各媒体にまたがる対策効果などの予測を包括的に推定できるモデルの構築を図る考えです。

当社では水銀をはじめ、有害金属の分析には実績があります。お気軽にお問い合わせください。

資料 2006年12月28日付 化学工業日報

機器分析箇所 竹下尚長